

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター（奈良県保健研究センター内） *Nara IDSC*

今週の概要

- 第 38 週の感染症情報
- 流行感染症情報(1)：手足口病
- 流行感染症情報(2)：RS ウイルス感染症
- 保健研究センター 10 月便り ～サポウイルス、アストロウイルスについて～

第 38 週の感染症情報（9 月 16 日(月)～9 月 22 日(日)）

奈良県および医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	1.65	→	→～↓	→	→
2	RS ウイルス感染症	1.35	↑↑	↑	↑↑	↑↑
3	手足口病	1.21	↓	↓	↓	↓
4	水痘	0.59	→～↑	↑	→～↓	↑
5	ヘルパンギーナ	0.35	↓	→～↓	↓	→～↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数（37→38 週）は 123→82 例と推移した。上位 5 疾患は①手足口病（45→26 例）（定点あたり 1.53 と警報継続基準値 2 を下回った。）②感染性胃腸炎（28→20 例）、③水痘（12→15 例）、④ヘルパンギーナ（15→8 例）、⑤RS ウイルス感染症（6→5 例）、眼科定点の報告は流行性角結膜炎が 1 例あった。

（有山 記）

県北部外来状況 朝晩はかなり涼しくなったので、所謂風邪は増えてきたが感染症の対象疾患はほとんどありません。手足口病やヘルパンギーナも減少が続いています。保育園で流行がみられた RS ウイルス感染症も減少しました。

（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は 84 例で、前週報告の 100 例から減少。上位 3 疾患は、①感染性胃腸炎、②RS ウイルス感染症、③手足口病の順で、以下、咽頭結膜熱、A 群溶連菌咽頭炎、突発性発しん、ヘルパンギーナ（すべて 3 例）の 4 疾患が、同順で続いていた。RS ウイルス感染症の報告数（2→12→25 例）は、ほぼ倍増し増加の一途。感染性胃腸炎の報告数（30 例）は、前週に引き続き減少。手足口病の報告数（15 例）は、

第 33 週より連続しての減少。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（11→3 例）は、一転減少した。ヘルパンギーナの報告数（3 例）は、4 週連続で減少。桜井保健所および葛城保健所両管内眼科定点と基幹定点からの報告は、すべてなかった。（村井 記）

県中部外来状況 気温の変化と共に外来数は増加。鼻水、咳等の感冒が主となり、ヘルパンギーナ、手足口病は明らかに減少し、夏風邪パターンは変化してきた。足全体に細かい粟粒疹を認め、膝、手先に手足口病様水疱が数個併せて散在する幼児例がありウイルス分離提出中。乳児の咳とゼロゼロする例などやや長引く例があるが、RS はまだない。感染性胃腸炎はキャンピロ陽性例があったが、そう多くない。登録疾患は少なく、他に A 群溶連菌感染症がわずか。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（37→38 週）は 13→28 例と増加。報告のあった疾患は、①RS ウイルス感染症（1→16 例）、②感染性胃腸炎（5→6 例）、③水痘（1→3 例）、④突発性発疹（1→1 例）、④ヘルパンギーナ（1→1 例）、④流行性角結膜炎【眼科定点】（2→1 例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況 呼吸器症状主体の感染症が増加している。ほとんどが軽症であったが、乳幼児に RS ウイルス感染症がみられる。市内某保育所 2 歳児が同日入院し、咳嗽時にはチアノーゼも出現した。（寺田 記）

9 月 24 日（火）～30 日（月）は結核予防週間です。

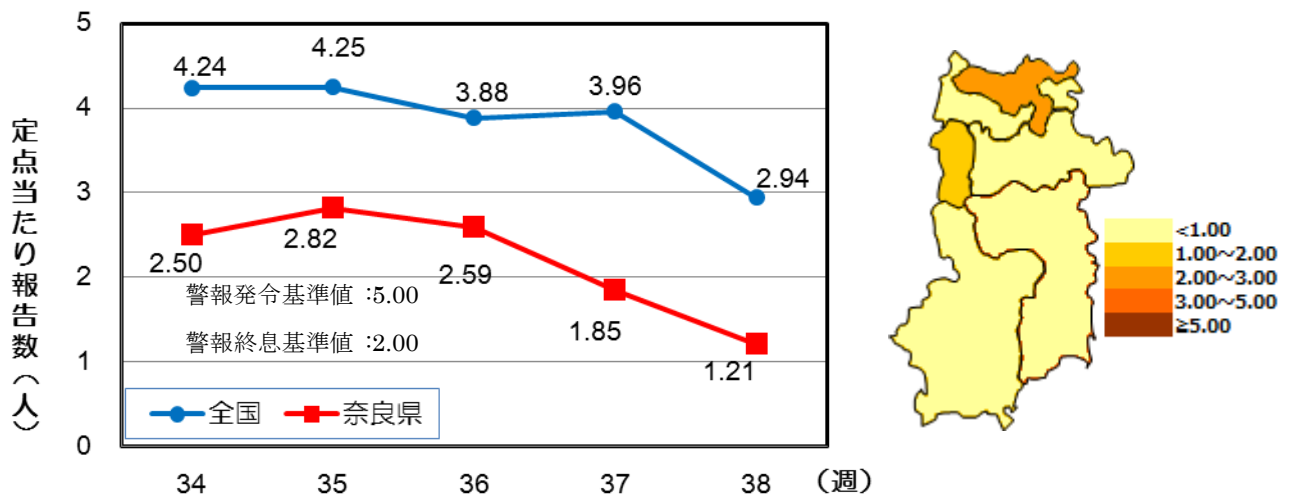
結核の初期症状は、せき・たん・微熱など、かぜによく似ています。かぜ症状が続く場合は早めに医療機関を受診しましょう。

参考（厚生労働省ホームページ）

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou03/index.html

《流行感染症情報(1)：手足口病》

第38週の奈良県全体としての定点あたり報告数は1.21（報告数41）で、警報終息基準値である2.00を下回っています。また、奈良市保健所では定点あたり報告数は2.43（報告数17）と第37週の定点あたり報告数4.71（報告数33）より大きく減少しました。今シーズンの奈良県内における手足口病については流行が終息傾向にありますので流行感染症情報としての情報提供を今回で終了します。



手足口病に関するQ&A (厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/hfmd.html>

予防対策についても記載があります (Q4)。

《流行感染症情報(2)：RS ウイルス感染症》

国立感染症研究所感染症疫学情報センターのまとめでは、RS ウイルスの患者報告数が都市部：福岡、東京、大阪、鹿児島を中心に拡大しており、特に大阪府では36週(9/2-9/8)に比べ37週(9/9-9/15)では患者報告数が約4割増加しています。奈良県でも37週(9/9-9/15)以降、定点当たりの患者報告数が中部および南部地域で2週続けて増加しています。患者は2歳までの小児が全体の93%を占めており、長期療養施設、保育所などでは感染している人との直接の濃厚接触や、おもちゃ、コップなどをなめたりすることによる間接的な接触感染には特に注意が必要です。

感染症情報センターホームページ <http://www.pref.nara.jp/27874.htm>

【保健研究センター 10月だより】

～サポウイルス、アストロウイルスについて～

これまで、当センターでの胃腸炎患者からのウイルス検索は全国的に検出数の多いノロウイルスやロタウイルスを中心に行い、センターだよりなどで随時報告してきました。今回、これまでご要望にお答えできていなかったサポウイルスとアストロウイルスの発生状況について調査を実施しましたので、これら2つのウイルスの簡単な説明と調査結果についてご報告します。

サポウイルスについて

サポウイルス (Sapovirus) は 1977 年に札幌での胃腸炎の集団発生において初めて報告されたウイルスで、ノロウイルスと同じカリシウイルス科に属するウイルスです。サポウイルスによる症状はノロウイルスと同様で、そのため症状から感染したウイルスを区別することは困難とされています。感染予防についてもノロウイルスと同様です。



アストロウイルスについて

アストロウイルス (Astrovirus) はアストロウイルス科に属するウイルスで、1975 年に急性胃腸炎の小児の糞便中から初めて発見されたウイルスです。アストロウイルスによる感染症はノロウイルスやロタウイルスに比較して一般的に軽く、通常は数日間で軽快するとされています。

今回の調査結果

直近 2 シーズンの間に採取された、胃腸炎患者糞便 293 検体について遺伝子検査を実施しました。結果、サポウイルスは 16 検体 (5.5%)、アストロウイルスは 19 検体 (6.5%) 検出しました。検出率は同時期のノロウイルスやロタウイルスと比較すると極めて低い結果となりました。また、サポウイルスについては、他の地域でも流行している遺伝子型であったことを確認しました。

調査を終えて...

サポウイルス、アストロウイルスはノロウイルスやロタウイルスと比較すると検出率は低いと報告されています。検出数も少ないことから、これらのウイルスについての疫学調査はノロウイルスやロタウイルスと比較すると遅れています。

感染症発生動向調査で全てのウイルスを常時検索対象とし、原因ウイルスを 100%的中させることは困難ですが、限られた検査体制の中、ウイルス検出率を向上できるようにチーム員一同日々努力しています。病原体定点医療機関の皆様には、今後とも調査にご協力をお願いいたします。

今回の調査結果については、11 月に開催される第 34 回奈良県公衆衛生学会 (<http://www.pref.nara.jp/32473.htm>) で発表を予定しています。

(ウイルス・疫学情報チーム 米田 記)